

## 県立工業高等学校の設置について

世界的に類を見ないスピードで進む少子高齢化や本格的に到来した人口減少社会、都市部への人口集中は、地域の労働力人口や消費需要の減少など、地域経済にもたらす深刻な影響が懸念されております。岐阜県においても、平成17年頃を境に人口は減少局面に入り、地域経済を支える現役世代が、今後長期間にわたり減少していくことが予測されております。

このような状況の中、県内、本市の産業を牽引しているものづくり産業が、持続的な成長・発展を維持していくためには、次代を担う若い人材の育成が喫緊の課題となっております。

幸い本市には、航空宇宙、自動車、金属、医薬、プラスチック等の多様な業種の企業が立地しており、活力あるものづくりのまちとして成長・発展してきました。近年には、テクノプラザ地域を始めとして、航空宇宙、ロボット、医療機器、介護福祉機器といった次世代産業の集積が進みつつあり、製造品出荷額等は長年にわたり県内1位を誇っております。

また、各務原商工会議所とともに、岐阜大学、岐阜工業高等専門学校、中日本航空専門学校といった高等教育機関との間で、産官学連携協定を締結し、「産業の振興」や「人材育成」、「まちづくり」など、多様な分野において連携、協力を図っており、産官学の連携の環境も整っております。

さらに、平成26年度から始まった各務原寺子屋事業では、小学校高学年を対象に「ものづくり見学事業」を実施し、市内の様々なものづくり現場の見学を通して、郷土への誇りやものづくりへのあこがれを育む取り組みを推進しております。

しかしながら、労働力人口の減少による人材不足や少子化の進展に伴う高等学校等の規模の縮小が予測される中で、ものづくりに興味、関心をもつ子ども

たちに均しく学びの機会を保障し、夢や志をもって地域社会・経済に貢献できるよう、高等教育の充実や産官学の強固な連携が今後ますます重要になってくるものと考えております。

貴県におかれましては、「第2次岐阜県教育ビジョン」において、「中長期的な将来を見据えた高等学校の改革」を重点政策に掲げ、少子化の進展や社会、産業界の将来ニーズを見据えた高校、学科の再編を検討されています。

については、本市の産業構造の特色や産官学連携の強みを生かしつつ、初等教育から高等教育まで連続した学びの機会を確保することにより、地域産業へのさらなる人材還元につながるものと考えておりますので、本市への県立工業高等学校の新設または市内高等学校への専門学科の設置を検討していただきますよう要望いたします。

なお、ものづくり系高等学校等の誘致については、かねてから地元産業界から切望されており、この度、各務原商工会議所から本市に対し、要望書が提出されましたことを申し添えます。

平成28年2月3日

各務原市長 浅野 健司

岐阜県知事  
古田 肇 様

高等学校の観光関連学科の新設に関する

## 要 望 書

平成29年2月

高山市

## 高等学校の観光関連学科の新設に関する要望書

平素から高山市の産業振興につきまして格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、高山市内の高等学校には、高山市の地場産業である木工家具等のものづくりに必要なデザイン・インテリアの学習や飛騨の匠の技術を継承する「建築インテリア科」（高山工業高等学校）、飛騨の農作物の栽培や加工、飛騨牛の飼育などを学習する「園芸科学科」「生物生産科」（飛騨高山高等学校）など飛騨地域の産業に関連した学科を設置していただいております。

平成28年に450万人（うち、外国人観光客42万人）を超える観光客が高山を訪れ、年間1,800億円以上の波及効果をもたらしていますが、観光産業においては深刻な人手不足が続いており、平成28年11月の接客業における有効求人倍率はフルタイムが3.21倍、パートタイムが3.89倍と、飛騨高山へお越しいただく観光客をお迎えするのに十分な「おもてなし」ができない状況にあります。

特に、宿泊施設において調理や接客する人材の不足は深刻な状況となっており、人手不足から予約を制限する状況となっております。

つきましては、飛騨地域の基幹産業である観光産業を支える人材の育成・確保の必要性をご賢察賜り、次の事項に関しまして格段のご尽力を賜りますようご要望申し上げます。

高山市長 國島 芳明

## 要望事項

1. 将来の観光産業を担う人材を育て、地元で就職してもらうために、高山市内の高等学校に、「ホテル・旅館でのおもてなしを学習する学科」や「料理・調理を学習する学科」等、観光関連学科の早期新設を願いたい。
2. これらの学科の新設に伴い、高山工業高等学校、飛騨高山高等学校の既存の職業学科も含め、全国から学生を募集する特区として進めていただき、市内の空き家の利用等を含めた学生が宿泊する寮（特に女子寮）の設置、またはホームステイ等の手法によるなど学生の宿泊について取り組んでいただきたい。

岐阜県教育委員会  
教育長 松川 禮子 様

山県高校の将来を考える（提言）



山高 MIRAI（未来）プロジェクト

## 山県高校の将来を考える（提言）

### はじめに

山県高校は、昭和 27 年に近隣 16 町村の熱心な働きかけにより、この山県の地に高等学校が設立されました。以来、多くの生徒を育て、社会へ送り出し、卒業生は地元を中心に活躍をしてくれています。現在、全国的な少子高齢化が問題になる中、ここ山県市においてもその波は大きく押し寄せています。山県高校も生徒数減少が必至であり、平成 27 年度末の高等学校活性化計画策定委員会審議まとめや、県議会における議論から、地元山県市、山県市商工会、地域代表、県議会議員、学校関係者(同窓会・PTA 含む)を中心に昨年 11 月「山高 MIRAI(未来)プロジェクト」を立ち上げました。「生徒の未来・学校の未来・地域の未来のため、活力ある高校づくりをしていこう」というプロジェクトです。その協議の中で、地域と連携してキャリア教育を推進していくとともに、多様な入学生に対して多様な学びを提供し、よりきめ細かな指導・支援ができるように、「制度変更」を含めた提案をしていくことになりました。

### 生徒・保護者の願い

山県高校のほとんどの生徒が、地元企業・事業所への就職や、近隣の大学・短大・専門学校への進学を希望しており、実社会や進学先で役立つ知識や技術、態度を身につけたいと思っています。基礎学力はもちろん、就職や進学に役立つ資格取得や実学を学びたいという生徒も多くいます。実際就職した生徒の 3 分の 2 が製造業に携わっています。さらに、高校でも部活動を続けたい、通学に時間や費用のかからない近くの高校で学びたいという意見も強くあります。

### 地域の願い

山県市を中心とするこの地域は製造業が盛んで、市内唯一の高校である山県高校には、将来地元産業を担うことのできる人材を育ててほしいと願っています。社会人としての常識やコミュニケーション能力はもちろんですが、特に、モノづくりに対する基本的な心構え、基礎知識や技術を身につけてきてくれることを期待しています。同時に、地元の産業や福祉・医療介護、教育等の状況をもっと知って、地域の発展に寄与してくれる人材を求めています。

### 県への提言

これらを総合し、当プロジェクトからの提案として、山県高校に、少人数できめ細かい指導ができ、生徒の個性や能力を伸ばし、地域の活性化につながる学習ができる学科やコースを設ける「制度改編」をお願いしたい。具体的には、「総合学科」もしくは「単位制普通科」への改編を行い、それにより、進学にとどまらず、モノづくりやビジネス、看護福祉など、多様なコースを設け、個に応じた学びを用意し、将来の学びへつなげたい。

### 【参考】

○H27.12.17 県に提出した「山県高校について山県市からの提案」の改定版 H29.2.22

○山県市地元企業アンケート調査結果（H29.1月～2月実施）

平成 29 年 3 月 21 日

岐阜県教育委員会  
教育長 松川 禮子 様

山高 MIRAI (未来) プロジェクト  
顧問 林 宏 優 (山県市長)

地域社会人を育てる、地域とともにある山県高校に

H29. 2. 22

地域の願い 将来地元で活躍する地域社会人を育てる地域の高校

- 地域社会を支える人材を育てて欲しい  
地域を理解し、地域のことを考え、地域のために汗を流せる
- 地元産業を支える人材を育てて欲しい  
地元にある事業所（多くある小規模事業所）で活躍できる人材  
（他地域から就職する人材は少ない 地域でがんばる子を育てて欲しい）
- 山県高校のステイタスを上げることは、山県市の街づくりにもつながる

○…行っていること  
◇…取り組みたいこと

魅力ある山県高校

- 多様な学びができる山県高校  
◇ 地域の願いに応えられるコース開設  
◇ これまでの中高連携校での成果を活用
- 社会性が身に付く山県高校  
・ 世の中で生きていくための社会性を学ぶ学校  
・ 礼儀正しい学校  
○ キャリア教育  
・ 商工会とタイアップしたインターンシップ  
(23年間継続)  
◎ 「デュアルシステム」導入 (H30年度2年生)  
◇ 社会人講師による講話・研修(教職員・生徒)  
○ 一人一人を大切に生活指導・教育相談
- 確かな学力を身に付けさせる山県高校  
○ 一人一人に応じた学習指導  
◇ 中高協働による教材開発

地域に目を向ける山高生

- 地域で活動する山高生  
○ 中学校に山県高校の掲示板を設置し、卒業生が張替えに行く  
○ 小学校、保育園での読み聞かせ  
◇ 小中学校の挨拶運動にMSリーダーズが参加  
◇ 中高の部活動交流
- 市政・地域の活性化に目を向ける山高生  
◇ 行政との連携  
・ 市のイベントへの参画  
・ 地域防災活動への参画  
◇ 地域住民の活動と連携  
・ 朝市…ビジネス流通  
◇ 市長、行政職員と語る会

山県高校を支える地域の取組

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 中高連携による教材開発<br/>◇ 中学校での学習の定着の教材を、中高協働で作成<br/>◇ 中学校の学習ソフト・学習教材等を高校で活用</li> <li>□ 中高の教員の積極的な交流<br/>◇ 研究会等への相互参加</li> <li>□ 中高の活動の相互参加</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 通学しやすい山県高校へ<br/>(現状)伊自良→(ハーバス)→高富→(岐阜バス)→高校<br/>◇ ハーバス(自主運行バス)を、通学手段として利便性のあるものに<br/>○ 増便(H28年10月から朝2便)</li> <li>□ 市行政部局との連携<br/>◇ イベント等への参画の支援<br/>◇ 市長、行政職員と語る会(再掲)</li> <li>□ 市教育委員会との連携<br/>◇ 教育センター講座等の開放</li> </ul> |
|---|--|

山高MIRAI(未来)プロジェクト

山県市地元企業アンケート調査結果（対面による直接聞き取り） ◇調査者：山県高校 教頭、山県市教育委員会 学校教育課 ◇実施時期：平成29年1月～2月

◆ 質問内容：「地元高校に求める学校像(学んでほしいこと)」、「高卒採用に際し、求める人物像」、「企業実習の受入れの可否」等

No.	企業名	企業種	学校像		人物像	インターンシップ			デュアルシステム			その他(デュアル)	
			工業系	教育		◎	○	△	×	◎	○		△
1	A社	製造	問わず (あれば)	人の気持ちを考える 道徳心など心の教育 命の大切さ 最近の様子をもっとPR	コミュニケーション能力 忍耐力 運動系団体部活 自分の意見が言える子				■			■	・危険が伴う ・受入れ可否の確認指示
2	B社	製造	必須	大学生も理工系から採用 工業系が必須	耐える力 運動系団体部活 素直で聞く耳のある子 協調性とコミュニケーション能力 欠席日数(10日以内)	■				■			・危険が伴う ・人員が回せない
3	C社	製造	問わず	整理・整頓・清掃・習慣(しつけ)を学ばせる 指導	学力は問わない コミュニケーション取れば外国人労働者も採用 男子が集まらない	■				■			・2人希望
4	D社	食品加工	問わず	動物に触れる・加工の経験があれば・ 仕事の種類を複数体験可能な教育を	真面目で休まない子 仕事への姿勢が大切 挨拶とハキハキ話ができる子 社内ルールを守れる子	■						■	・水曜定休日のため ・3期で職種変更可能がよい
5	E社	製造	問わず	学習より、人としての訓練を重視した教育 自分をアピールできることの指導	特支卒者や外国人を採用 コミュニケーション能力重視 高校時代から欠席は不可 (中途採用者のレベルが上がってきている)	■				■			・すでに特支関係から実習中
6	F社	製造	問わず	社会人として大切にすることを(マナーや真面目さ) 社会の厳しさを教える 掃除をする力、気付き(汚いところ)の指導	前向きな心 欠席がないこと 真面目さ					■			・塾の要請で研修を実施中
7	G社	製造	必要	職業観や職業人としての自覚を学ばせる 教育の視点としては必要だが、特色がない。 企業とタイアップして何か取り組めないか。 仕事内容を伝える場が欲しい。	機構をよくわかっている人	■							・25～30日はなかなか重い ・2～3の業種は経験させたい
8	H社	製造	必要	施設くらいは軸らせてほしい。 税や社会保険について理解させてほしい。 他との違いが鮮明でないことが魅力がないこと。	欠席がないこと 元氣な子で、自分でやる意欲のある子	■				■			・バイターン
9	J社	製造	必要	工業系はCAD、営業系はExcel・Word必要。 社会人への切り替えがうまくできる子	欠席のないこと 対話で反対の仕方を見る	■						■	・たくみアカデミーの利用
10	K社	製造	無し	社会人基礎力の習得 就業観の醸成について学べる	自分の意見や考えを持つ コミュニケーション能力 自主的に学べる子	■						■	一日完結型はすぐにもOK

※ 対象企業：山県市商工会から紹介の10社

年3日間学年全員 毎週1日、年28回

# 郡上市の県立高等学校の 望ましいあり方 【提言】



平成29年3月

郡上市総合教育会議

《 目 次 》

はじめに	1
1 郡上市の高等学校の将来像（基本的な考え方）	2
2 郡上市の高等学校の規模と継続維持について	3
3 配置・学習コースの最適化と通学支援について	4
4 市内高等学校の特色化推進について	5
5 郡上市の高等学校で考えられる望ましい学習コースについて（設置案）	5
6 地域社会の関わりと情報発信について	8
7 学習活動に活かす「郡上学」と地域ぐるみの人材育成	8

資 料 編

○郡上市総合教育会議委員名簿	1
○郡上市総合教育会議での主な意見	2
○郡上市内中学校卒業生進路状況	3
○平成28年度学科・コースの内訳	4

## はじめに

郡上市総合教育会議では、平成28年6月28日に開催した平成28年度第1回郡上市総合教育会議において、今年度の取り組みテーマを、平成27年度に策定した郡上市教育大綱の具現化とした。この大綱に盛り込まれた項目のうち、今年度は「県立高等学校のあり方の検討と地域要望の実現努力」に焦点をあて議論を進めた。

「郡上の高等学校の望ましいあり方を考える会」や「郡上北高等学校活性化協議会」で話し合われた内容について情報提供を受ける中、第2回の総合教育会議において郡上市の高等学校の将来像に係る基本的な考え方をまとめ、第3回、第4回の総合教育会議で「郡上市の県立高等学校の望ましいあり方（提言）」の案を策定。議論の最終となった第5回の総合教育会議で委員の意見を集約し成案とした。

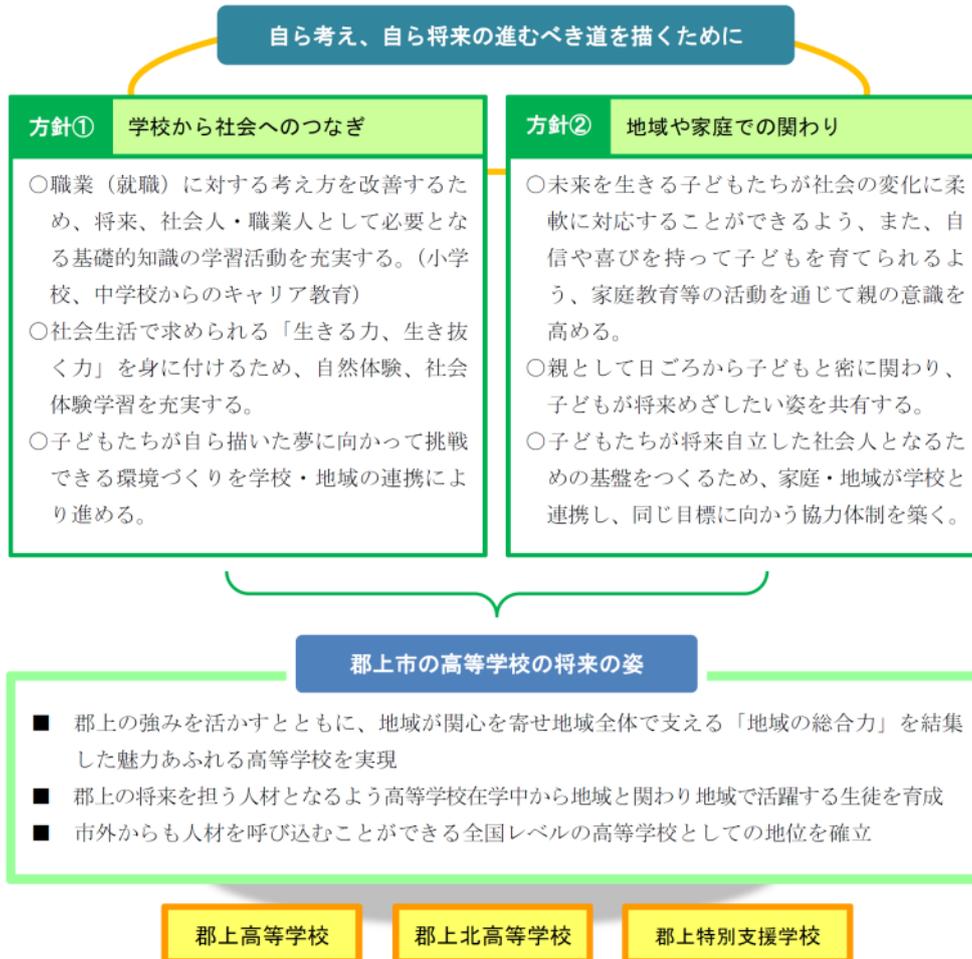
郡上市の高等学校の将来の姿として、地域が関心を寄せ地域全体で支える魅力あふれる高等学校の実現や、郡上の将来を担う人材の育成、全国レベルの高等学校としての地位を確立することなどを盛り込み、これからの時代を切り拓いていく郡上の子どもたち一人一人が、個性や能力を磨き、自ら描いた夢に向かって挑戦できる環境づくりを学校・地域の連携により進めることを確認した。

提言では、新しい時代にふさわしい魅力と活力ある県立高等学校づくりが進むよう、できるだけ具体的な提案となるように努めたところである。

岐阜県教育委員会として、本提言で示した活性化策を十分に検討され、活用されることを切に願うものである。

郡上市長 日置敏明

## 1. 郡上市の高等学校の将来像（基本的な考え方）



## 2. 郡上市の高等学校の規模と継続維持について

郡上市の県立学校は、郡上高等学校、郡上北高等学校、郡上特別支援学校の3校があり、平成28年度の内訳は、郡上高等学校は4科編成（普通科／生徒数120人・3クラス、森林科学科／生徒数40人・1クラス、食品流通科／生徒数40人・1クラス、総合学科／生徒数40人・1クラス）、郡上北高等学校は2科編成（普通科／生徒数80人・2クラス、ビジネスコース／生徒数40人・1クラス）、郡上特別支援学校には高等部が設置されており、現在、全校が適正規模となっているが、全体的には生徒数の減少が続いている。

今後も生徒数の減少が続くと見込まれるが、広範な市域を有する郡上市においては、生徒の通学の最適化や、各教科・科目ごとに教員を適正に配置して、高等学校教育としての専門性を確保する観点などから、原則として、岐阜県教育委員会が示す高等学校の適正規模に係る基準はあるものの、郡上高等学校、郡上北高等学校、郡上特別支援学校を将来にわたって継続維持していくことが強く求められる。また、郡上高等学校、郡上北高等学校、郡上特別支援学校の3校については、地域と密接につながった学習活動に力を入れており、郡上市民が想いを寄せる大切な学校となっている。郡上市の未来を創る人材は、地域住民や市内の事業所、市民活動団体等地域社会との関わりの中で郷土愛が醸成され生まれるものである。郡上北高等学校活性化協議会及び郡上の高等学校の望ましいあり方を考える会からも同様の意見、提言が出されており、郡上高等学校、郡上北高等学校、郡上特別支援学校の3校の継続的な維持は郡上市全体としての願いでもある。

なお、郡上市の最上位計画である郡上市総合計画及び郡上市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、高等学校に係る人材育成として以下の取り組みを施策に盛り込み、学力をつけること及び郷土に誇りを持つ郡上人を育てていくことの必要性を明記している。

計画種別 施策	総合計画	総合戦略
施策の柱(方針)	確かな学力と豊かな心をもった「郡上人」を育てます	次代の郡上市を担う人材の育成
主な取り組み	市内高等学校のあり方についての調査研究	特色ある職業教育の推進と高等学校学科編成の調査研究の実施

確かな学力と豊かな心、そして郷土に誇りを持つ「郡上人」を育成

### 3. 配置・学習コースの最適化と通学支援について

市内県立高等学校の配置については、高等学校教育を受ける機会が均等に確保されるよう、十分考慮しながら、適正化に努める必要がある。郡上市は八幡地域や白鳥地域、大和地域に一部市街地があるものの、全体としては市域の広い範囲に洞が分かれ、そこに集落が点在している。こうした地域の特徴から、交通に不便な地域が多くあり、通学にかかる負担や、学校・学科の選択の機会にも配慮する必要がある。また、人口減少が著しい郡上市においては、将来、地域を支える人材の育成など、高等学校が地域振興に果たす役割への期待が高まっていることから、こうした期待に配慮する必要もある。このため、岐阜県教育委員会が定める高等学校の適正規模未満になった場合であっても一つの高等学校として認め、運営していくことが適切である。

郡上市総合教育会議としては、生徒の通学実態等を踏まえ、子どもが通学しやすい環境づくりや、遠隔地の通学困難な子どもたちを対象とした支援などについて、市の政策に盛り込むことなどを検討する。さらに、生徒が社会性や確かな学力を身に付けられるよう適切な教育環境を整えていくことはもちろんのこと、郡上市の地域特性や強みを活かした特色ある学習コースの設定等についても研究していく必要がある。

なお、郡上高等学校、郡上北高等学校とも、普通系学科と総合学科、職業系専門学科を現在の比率で維持していくことが必要であり、子どもの数の減少が続くことを考慮して、1学年の適正学級数や定員枠を緩和していくことが求められる。さらに、職業系専門学科については、高等学校で学んだ専門的な知識・技能が、市内の就業に結び付くような学習の仕組みづくりや、将来的には郡上高等学校と郡上北高等学校において学科の役割分担を明確化していくことが必要である。また、郡上北高等学校については、自らが考え行動する力を身に付け、自分の生き方や将来を真剣に考えることができる仕組みづくり（例えば「単位制<sup>\*</sup>」の導入など）について研究することが望まれる。

※ 単位制高等学校は、学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば卒業が認められる高等学校。昭和63年度から定時制・通信制課程において導入され、平成5年度からは全日制課程においても設置が可能となっている。単位制高等学校の特色としては、自分の学習計画に基づいて、自分の興味、関心等に応じた科目を選択し学習できることや、学年の区分がなく、自分のペースで学習に取り組むことができることなどが挙げられる。将来の進路をしっかりと見つめて、自分にあった時間割を自分で組み立てて学ぶのが基本となっていることから、主体的に学ぶ姿勢が重要となる。

#### 4. 市内高等学校の特色化推進について

郡上市では、近年アウトドアレジャー産業が活発化しているとともに、専門性の高い製造業の分野も伸長している。また、大型製材工場の市内進出など、豊かな森林資源を活かす林業の分野にも多くの人材が求められており、こうした新たな地域産業や地域社会を担う人材の育成など、市内の高等学校が地域振興に果たす役割への期待が高まっている。このことから、地元企業及び地域等と連携した教育活動の推進や、地元企業等でのインターンシップの充実等に一層努めていく。特に、産業の技術革新の進展などに伴い、産業界で必要とされる専門的知識・技術は拡大し、高度化してきている。市内の産業界のニーズの変化に対応した実践的な教育を通して、専門的知識・技能の基礎を身に付けさせていくことが重要である。また、より高度な専門的知識・技能の修得を目指して高等教育機関への進学を希望する生徒への対応も更に充実していく必要がある。

郡上市総合計画や郡上市まち・ひと・しごと創生総合戦略にも主要な取り組みとして掲げたように、学校から社会への円滑な移行のためのキャリア・職業教育の推進が求められている。勤労観・職業観をしっかりと育み、郡上市の将来を担う人材となるため、普通系学科においても地域の特性を活かした学びの機会を充実させていく必要がある。

岐阜県内では、掛斐高等学校と八百津高等学校が学校での座学と企業での実習を組み合わせで行う新教育システムである「日本版デュアルシステム<sup>※</sup>」を平成27年度から導入している。郡上市の高等学校においても、デュアルシステムによる高等学校生の実践力の向上、勤労観・職業観の育成など、効果的な導入方法の調査研究が必要となっている。

※ ドイツを発祥とする学術的教育と職業教育を同時に進めるシステム。厚生労働省と文部科学省が中心となり、平成16年度に法改正を行って始まった。この「日本版デュアルシステム」は、実践的な職業知識や技術・技能を養う教育・訓練を高等学校教育に導入して生徒の資質・能力を一層伸長するとともに、勤労観、職業観を育むことを第一義的なねらいとしている。「日本版デュアルシステム」は、高等学校を活性化するとともに、専門高等学校等と地域の産業・企業とのパートナーシップを確立して地域の産業・企業が求める人材など、社会に有為な人材の育成につながっている。

#### 5. 郡上市の高等学校で考えられる望ましい学習コースについて（設置案）

郡上市総合教育会議では、平成28年度に開催した会議の中で、郡上市の高等学校で考えられる望ましい学習コースについて検討を行った。学習コースを考えるにあたっては、「郡上の高等学校の望ましいあり方を考える会」で話し合われた学習コースを活かすとともに、郡上高等学校と郡上北高等学校の特色を活かした内容となるよう考えた。

検討の結果を次のとおり示す。

【郡上北高等学校】

郡上北高等学校に今後求められる学科として、総合学科と単位制普通科を想定し、双方のメリット・デメリットを比較検討した結果、郡上北高等学校には「単位制普通科」を設置するとともに、企業と連携し「デュアルシステム」を導入していくことが望ましいとの結論に至った。この学科システムでは、1年次は必修科目で基礎学力をつけ、進路学習（適性検査、職業別ガイダンス、企業見学会、科目登録）をていねいに進める。2年次からは、設置目的に応じて各コース（類型）を下記のとおり配置する。

コース名	コース設置の目的
文系進学類型	英語、国語、地歴公民を強化して学力を高める。
進学先	文系大学、短大、専門学校
理系進学類型	数学、理科を強化して学力を高める。
進学先	理系大学、短大、専門学校
観光・ビジネス類型	スキー、ラフティング、宿泊業、飲食・サービス業など、郡上市の観光やそれを支える企業等で働く資質と、アウトドア、自然体験分野のインストラクターとして必要となるスキルを身に付ける。また、簿記、情報、ビジネス系の科目を履修し、多くの資格取得を目指す。 郡上おどり、白鳥おどりなど郡上の歴史や文化、芸能を学びながら、郷土文化や伝統芸能の継承・発展につながる人材育成を行う。
想定される就業先	観光協会、スポーツセンター、スキー場、ラフティング関係、子ども向け自然体験・教育旅行提供団体、森林レジャー施設等 中部学院大学のスポーツ健康科学科との連携
工業デザイン・ものづくり類型	土木建築、金属製品製造、木製品製造、情報通信等の基礎的知識や各種機械器具の操作技能等を習得する。 市内企業と連携し「デュアルシステム」を取り入れる。
想定される就業先	一般土木工事、建築工事、設計等建築サービス、金属製品製造、木製品製造、情報通信（CATV等）の関連企業、事業等

看護・保育類型	英語、数学、国語に加え家庭科（保育、福祉、フード等）を学び、看護・保育関係で働く基礎を身に付ける。
想定される進学先	医療系、保育、福祉系専門学校

### 【郡上高等学校】

郡上高等学校については、これまでどおりの4科編成（普通科、森林科学科、食品流通科、総合学科）とする。

#### <コースの設置におけるカテゴリーの考え方>

- ・郡上市における持続的な活力づくりに向けては、「観光産業、農林業、製造業」の3つの産業が柱となる。高等学校教育においては、農林業を郡上高等学校、観光産業と製造業を郡上北高等学校で学ぶことができる体制づくりをめざす。

#### <部活動と学習コースの適正な両立>

- ・部活動とコース（類型）の関連も検討する。部活動は運動技能のみならず、礼儀、明るさ、コミュニケーション能力、忍耐力など、就職後に生きる力を学ぶことができる。企業は、部活に3年間打ち込んだという付加価値に注目している。

#### <学習コース設置案に結びつく郡上の地域特性>

- ① 郡上市では、観光関連産業に多くの市民が従事している。特にスキーやスノーボードといったウィンタースポーツや夏場を中心としたラフティングなどアウトドアレジャー関係の事業所が伸長・活発化している。アウトドアレジャーは郡上市の内発型産業として今後さらに発展する可能性があり、この業種において通年型雇用が実現すれば、より多くの人材確保が必要になる。このことから、特色ある職業教育の推進を図る「観光・ビジネス類型」のコースが設定されれば、市内就業とのマッチングが進むとともに、高等学校の大きな魅力となることが期待される。
- ② 高等学校の魅力づくりのひとつとして、ハイレベルな競技スポーツを行う環境を、郡上市につくることが考えられる。こうした環境が整うことで、市外から多くの子どもが集まる可能性がある。現在有望な競技として、体操（器械体操）があり、郡上八幡体操クラブは、県の大会で上位に入る選手を多く抱えている。岐阜県では、「清流の国ぎふ2020プロジェクト」により、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた取り組みを活発化しており、この取り組みに呼応して、東京オリンピック・パラリンピックの選手を

郡上市から出すことも夢ではない。体操以外にも、スキーやスノーボード、剣道、テニスを教育委員会として強化種目に指定し、市をあげて市外の子どもを含めた優秀な選手の練習環境や生活に必要な環境を確保するという政策づくりも考えられる。いずれにしても、スポーツや文化に関連した人材育成を効果的に行うため、学習コースとの連携、両立を確保していく必要がある。

## 6. 地域社会の関わりと情報発信について

郡上人として人間性を育むためには、コミュニケーション能力など社会における適応性を高めていく必要がある。高等学校生活において、学校内の人間関係だけでなく、学校外部の人々との交流の機会も重要である。また、典型的な農山村地域であり人口減少が著しい郡上市においては、地域の明るい未来を自ら築く起業マインドを持った人材づくりが求められる。このことから、積極的に地元企業や地域等と連携した教育活動を推進するとともに、地域社会に根付く「教育力」を学校運営に活用して学校の特色化や活性化を図る。

これまでにはない新しいタイプの学習コース設置が進む場合は、既にある学校の特色や魅力と合わせ、中学生や保護者等へ十分理解してもらえるよう、分かりやすい情報発信に努めるものとする。

## 7. 学習活動に活かす「郡上学」と地域ぐるみの人材育成

郡上学は、郡上のこれまでといまを学び、郡上のこれからを考え行動する人材育成を目的として実施している。郡上学の実践は、総合計画、総合戦略の方針である「確かな学力と豊かな心、そして郷土に誇りを持つ郡上人」を育成することにつながる。このことから、自ら考え行動をするための想像力や主体性、コミュニケーション能力など、社会で活躍するための総合的な人間力を磨くことにつながる「郡上学」を、高等学校の学習活動に取り入れる。

郡上学は、自分たちが生まれ育った地域を知ることによって多様な価値観や出逢いを生み出すものであり、地域を舞台とした地域ぐるみのキャリア教育ともいえる。

子どもたちが「行きたい」と思える高等学校が郡上市内にあり、親が「行かせたい」と心から願う高等学校が身近にあることは大きな魅力であり、こうした魅力ある高等学校づくりを「郡上学」の実践や特色あるコース設置により実現することと、大学に進学しても郡上へ戻って就職し、会社や地域でリーダーとして活躍してくれる人づくりの環境整備が求められる。

郡上市総合教育会議として、未来を担う人づくりの視点で教育と地域活性化をつなぎ合わせ、「郡上市の高等学校で子どもを育てたい」という「郡上教育ブランド」を、民間企業を含めた地域の総合力で築くことが重要である。

<地域とつながる活動の実践事例>

① 郡上高等学校

郡上高等学校食品流通科では、店舗経営を学ぶ授業の一環として、平成26年度から市内のNPO法人が運営するコミュニティカフェを活用し「高等学校生カフェ」を運営している。商品の開発や試食、経営企画の発想などをNPO法人のスタッフから学ぶとともに、地域の方々とのつながりを通じ、郡上への愛着を深めている。

② 郡上北高等学校

郡上市が地方創生のプロジェクトとして実施している都市農村対流促進イノベーションプロジェクトに位置付けた「首都圏イベントを通じた郡上市の魅力発信・PR事業」に郡上北高等学校の生徒が参画した。具体的には、郡上市と市内の地域づくり団体（奥美濃カレーファミリー、めいほう鶏ちゃん研究会）が出展したB-1グランプリスペシャル大会（12月3、4日に東京の臨海副都心で開催）に生徒18名がスタッフとして参加。大会に向けたプランづくりから関わり、大会当日は、郡上市の魅力を高等学校生の視点でPRした。また、郡上北高等学校では、地元公民館の活動や地域行事にも積極的に参加している。こうした活動は、高等学校生が地元とつながり、郷土愛の醸成と自信を深めることにつながっている。

③ 郡上特別支援学校

郡上特別支援学校では、地域とのつながりを大切に活動に力を入れており、地元講師を招いてのワークショップ等を積極的に展開している。また、道の駅古今伝授の里やまと内のギャラリーにおいて、「G o o d j o b喫茶」を開き、喫茶サービスを通じた接客や自立、地域の方々との交流に力を入れている。

## 参 考 资 料

郡上市総合教育会議 名簿

【構成員】

役職名	氏 名
郡上市長	日置 敏明
教育長	石田 誠
教育長職務代理者	原 初次郎
教育委員	杉本 尚之
教育委員	清水るみ子
教育委員	水野 秋子

## ■ 郡上市総合教育会議での主な意見

- 郡上北高は分校としてではなく、中高一貫教育を含め今やっていることを幹として、ここから枝が出せる方法を考えるべき。
- 郡上市では、郡上高等学校、郡上北高等学校の両校を残す方が子ども達にとっては良いこと。また、寮生活ができる環境や通学助成について、行政の支援があると良い。
- 子どもたちの将来にとって、郡上市内の高等学校はどうあるべきかを考えることが大事。なぜ2つの高等学校を残すことが必要なかを整理し、できるだけ流出を抑え流入を図っていくための方策を考える。
- 郡上市として、2校は地域に無くてはならない高等学校として、企業や地域社会、諸団体との結びつきを強め、存続すべき学校という状況をつくる必要がある。
- 郡上市内の高等学校が1校になると、極端に通学環境が悪くなり、加速度的に郡上市内の高等学校に通う子どもが少なくなる可能性がある。
- 15歳で郡上市を離れる子どもが増えるとその子たちの故郷はどこになるか。15歳から17歳の年代で地域の人と出会い地域の文化を身につける。郡上市を離れる子どもが増え、空洞化になることは避けなければいけない。
- 地域の人がかもって高等学校に関心を寄せ、地域で子どもたちを育てていける環境づくりが大切。
- 中学校を卒業した子どもの8割残すことを維持しようという考え方でいくと、郡上市内2校の高等学校は必要。郡上の小中学校で育てた子ども達の8割は地元の高等学校に通わせたい。
- 15歳から17歳の大切な3年間を市内で過ごすかどうかで地域への思いの度合いが違ってくる。さらに愛着を持って、将来郡上へ戻って活躍し、郡上を担いたいと思ってもらえるよう今の教育の関わり度合いを強めていかなければいけない。
- 仲間づくり、大人との関わり、社会（地域の価値）を高等学校で体験できるかは、その後の生き方に大きく影響する。
- 特色ある学科は高等学校だけの問題ではなく、産業界との関わりも重要視していく必要がある。
- 郡上市内の企業が求めている人材について整理し情報提供することで、「郡上の企業に就職する」という流れをつくることができる。

郡上市内中学校卒業生進路状況

		H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20
八幡中	郡上高等学校	65	62	66	64	86	80	90	74
	郡上北高等学校	7	8	9	10	2	15	12	9
	市外	15	9	24	11	19	7	13	28
八幡西中	郡上高等学校	12	17	13	18	19	14	20	15
	郡上北高等学校	3	1	2	2	6	8	3	4
	市外	6	5	3	4	1	0	4	6
大和中	郡上高等学校	57	41	54	58	43	41	42	39
	郡上北高等学校	15	22	14	16	12	23	17	22
	市外	14	17	9	5	10	13	10	9
白鳥中	郡上高等学校	45	62	50	64	56	56	66	70
	郡上北高等学校	54	45	52	60	66	74	81	64
	市外	16	15	15	14	13	13	18	20
高鷲中	郡上高等学校	12	15	7	16	21	15	20	16
	郡上北高等学校	12	8	11	11	5	19	7	8
	市外	7	10	12	11	14	14	9	15
郡南中	郡上高等学校	14	9	16	19	12	16	13	14
	郡上北高等学校	3	1	1	2	5	4	5	5
	市外	25	18	27	15	30	25	33	27
明宝中	郡上高等学校	22	15	16	14	20	25	8	22
	郡上北高等学校	3	1	2	0	3	3	3	4
	市外	4	3	4	3	4	5	4	7
郡上東中	郡上高等学校	12	12	25	15	13	19	21	19
	郡上北高等学校	2	0	1	2	3	5	1	3
	市外	4	1	7	6	4	10	4	6
郡上高等学校		239	233	247	268	270	266	280	269
郡上北高等学校		99	86	92	103	102	151	129	119
市内2校計		338	319	339	371	372	417	409	388
市外公立・私立等		91	78	101	69	95	87	95	118
卒業生総数		429	397	440	440	467	504	504	506

平成28年度の学科・コース内訳

学 校	学 科・コース	生徒数	クラス
郡上高等学校	普通科	120	3
	森林科学科	40	1
	食品流通科	40	1
	総合学科	40	1
郡上北高等学校	普通科	80	2
	ビジネスコース	40	1
郡上特別支援学校 高等部	普通科	8	1

※郡上特別支援学校については、該当の生徒数並びに重複学級により年度ごとのクラス数は変動する。